

【公共政策学講演会】

日本映画を 撮影現場の視点から

講師：柳島克己 撮影監督・東京藝術大学大学院名誉教授

➤撮影現場は特殊な職場です。撮影依頼のオファーから撮影現場までの流れ、ロケハン、美術に衣装・メイク、撮影機材やスクリーン、4K、8Kについて。そして今、海外と日本の違いは一。

撮影監督とはどのような仕事なのか、現場の視点から具体的にお伝えしつつ、日本映画の将来について皆さんとともに考える機会にしたいと思います。

【講師プロフィール】

1990年『3-4X10月』以降、1991年『あの夏、いちばん静かな海』、1993年『ソナチネ』、1996年『Kids Return』、1999年『菊次郎の夏』、2001年『BROTHER』等から2010年『アウトレイジ』以降のシリーズ最新作まで、北野武監督作品の多くを手掛ける。その他の近年の作品として、2016年『後妻業の女』(鶴橋康夫監督)、2018年『食べる女』(生野慈朗監督)等。

日時：11月10日(火) 16:30~18:00

場所：北大文系共同講義棟 5番教室

■聴講について

この講演会は、公共政策大学院授業科目「公共経営事例研究」の一環として行うものですが、学内の方にかぎり、聴講を歓迎いたします。履修者数名を含み、合計40名まで入場可としますので(感染症拡大予防のため人数制限厳守)、参加ご希望の方は当日会場にて学生証・職員証を提示のうえご参加ください。ただし質疑応答などは履修者優先とさせていただきます。

